

## 令和7年度 第1回養父市立図書館協議会 議事録

- 1 開催日時 令和7年7月23日(水) 10時～12時
- 2 会場 養父公民館2階 B研修室
- 3 出席者 鷹野恭子(会長)、守本加代子、松岡弓果、山崎友香、宮本裕美  
事務局5名 … (本館) 藤本、白岩、毛利、西谷、(養父分館) 中嶋
- 4 内容 \*司会進行 … 事務局(西谷)
  - (1) 開会あいさつ
    - ア 鷹野会長
      - ・八鹿高校前のペア内にある私設図書室「オンサルデ」の利用状況、7月から本館で始めた「読書会」の取組も紹介しながら挨拶する。
    - イ 藤本館長
      - ・児童生徒数の減少、市内に書店が2店しかないこと、所有する本の冊数が25冊以内の家庭が4割であることを基に、公立図書館の存在意義や役割がますます大きくなっていることや今回の協議事項を設定した背景について説明しながら挨拶する。
  - (2) 各委員の紹介 \*名簿順に自己紹介を行う
  - (3) 報告事項
    - ア 協議会の趣旨等について
      - ・資料2頁から3頁を基に説明
    - イ 令和6年度事業報告について
      - ・令和6年度の主な事業について、資料4頁から6頁を基に写真を提示しながら概要を説明する。また、7頁から9頁の統計グラフを基に、市内4館の利用状況、登録者の市内外の割合、分類別・年代別の貸出状況について説明する。
    - ウ 令和7年度事業計画及び主要事業について
      - ・資料10頁～13頁の資料を基に説明する。継続事業のうち、「ブックスタート」については、少子化のため、昨年度までの毎月実施を変更し、今年度から隔月実施とすることを補足した。また、新規事業として、「利用者カード」を新しくし、今年度6月中旬から更新対応を行っていることや、本館については今年度中に書架を増設する予定であることを12頁の資料を基に補足した。
- 5 協議事項
  - (1) 地域性を活かした特色ある図書館づくりについて
    - 公立図書館の存在意義や役割が大きくなっている中、同じような図書館が市内に点在するのではなく、市内配送便等の仕組みを活かしつつ、各館が地域のニーズに合

わせた資料収集・蔵書管理を行い、特色を出していくことがこれからは必要になってくるのではないかととらえている。ご意見をいただきたい。

<出された主な意見>

- ・ 大屋分館では、農業に関する本が多く所蔵してあるように思う。このように、地域の特色というか、その地域で盛んな産業や行事にまつわる図書の展示や選書をしていくことはよいことだと思う。
- ・ 関宮＝山田風太郎、養父＝映画のロケ地となった大庄屋記念館、大屋＝上垣守国、本館＝池田草庵 等、各地域にゆかりのある偉人や作家の作品を取り入れ「地元ゆかりの作家コーナー」をつくることも地域の特色づくりにつながると考える。特に、大庄屋記念館は映画のロケ地になり、観光客も多くなっているそうだが、その原作となったマンガを図書館に置けないか。大庄屋記念館には個人で購入されたマンガが展示されている。
- ・ 養父で今年はチェロコンが開催されたが、そのことに合わせてチェロ関係の本を並べてみるなど、各館でイベントに応じた書籍フェアを実施することも地域性を活かした取組になると思う。
- ・ 今年の「ナツフェス」においても図書館の和室で人形劇が行われたが、出生数が少ないと言われながらも、親子連れの参加が多数あり、部屋にあふれるばかりで多くの立ち見もある中、子どもたちは身を乗り出して聞いていた。こうしたイベントと、人形劇や読み聞かせのボランティア団体とコラボできるとよい効果が生まれると実感した。
- ・ 小中学校で読み聞かせをされているボランティア団体とも連携して、市内で開催されているイベントに合わせて、例えば、池田草庵や上垣守国といった偉人にまつわる紙芝居とかを行って特色を出していくこともできる。
- ・ 朝来市で行われている「おはなしフェスティバル」のようなことが、養父市でも市内の関係ボランティア団体と連携してできないかと計画している。これも特色づくりにつながると思う。
- ・ 「やぶ音楽祭」など、青柳いづみこ芸術監督による音楽イベントが年間を通して開催されているが、作曲家の伝記や様々な音楽ジャンルの本も増やしていったらどうか。楽譜は入れられるのか。

(2) 先生方や高校生にとって利用しやすい図書館づくりについて

○日常的にたくさんの高校生が図書館を学習する場として利用している一方で、資料9頁にあるように年代別の貸出冊数においては高校生の年代が一番少ない状況にある。「ブックスタート」を契機として、本に親しみ読書の楽しさを感じ得る経験が幼児から中学生まで丁寧に積み上げられている中で、その取組が高校生につながっていないのではないかと危惧している。高校性の貸出冊数を伸ばそうとする仕掛けづくりは、各年代へのアプローチにも役立ち、ひいては図書館全体の充実にもつながっていくものと考えられる。また、市内の小中学校・義務教育学校の先生方から教育書等のリクエストを募り、図書館に学校と連携したコーナーを創ることにより、学校

の取組や授業の教材研究、児童生徒・その保護者への対応等に役立つ図書館づくりも今後工夫していけたらと考えている。ご意見をいただきたい。

<出された主な意見>

- ・ 高校生が自ら「自分の頭で考える力」を培っていくには、本にしっかりと向き合  
って考えをまとめていく作業が欠かせない。読書離れが進んでいるとしたら心  
配である。本を読む時間を自分で作っていくことが必要である。
- ・ 例えば、ナツイチ（集英社）、新潮文庫の100冊（新潮社）など、書店で定期的  
に開催されているフェアを参考にして、話題の本や「高校生おススメ本」といっ  
たテーマをもって鮮やかなPOPで飾り付けることで視覚に訴え、手に取りや  
すくする工夫をしてはどうか。
- ・ POPの飾り付けについては、「がっせえアート」さんや高校の美術部と連携し  
てはどうか。
- ・ 「やぶ音楽祭」などのホールイベントも多数あるが、それぞれの内容に合わせた  
図書を展示したり、関係の音楽をBGMとして館内に流してみてもどうか。
- ・ YA（ヤングアダルト）に類する本も並んでいるが、高校生等がすぐに目につく  
ような場所に並べるなどの工夫も必要か。
- ・ スマホを日常的に活用している高校生にとって、館内を巡って本を探す時間や  
動きは彼らが大切にしているタイプの観点からも今やなじまなくなっているの  
ではないか。高校生のもつ興味やニーズを把握して選書の参考にしたり、高校生  
がぱっと手に取りやすい場所に配架したりするなど、対象を焦点化した工夫が  
求められる。
- ・ 雑誌についても、現在置いている紙媒体の雑誌に加えて、タブレットを利用した  
「雑誌読み放題サブスク」の活用も、高校生をはじめ若年層の取込みにつながる  
のではないかと。また、今後の電子書籍導入に向けた検討資料にもなるのではない  
かと思う。
- ・ 読みたい本の購入を希望する「リクエストサービス」について、高校生や先生方  
にも周知し、高校生が読みたい本や、先生方が活用したい心理学や授業に役立つ  
教育書などを購入していくことにより、図書館への関心をさらに高めてもらい、  
学校との連携も一層深まっていくのではないかと。そもそも、この「リクエストサ  
ービス」についてどのくらいの市民が知っているのかということも気になる。

(3) その他、市民の読書活動の充実に向けた方策について

<出された主な意見>

- ・ PR力が弱いのではないかと。SNSを積極的に活用するなど、何がどのように行  
われ、またどんなことをしようとしているのか、広報に力を入れていただきたい。
- ・ そのためにも、やぶ市民交流広場のアカウントとは別に、養父市立図書館のアカ  
ウントを新規作成することにより、新着図書のお知らせ、図書イベントのお知ら  
せや開催状況などの情報発信を試みてはどうか。
- ・ 他市町の図書館では、スマホで本の検索もできる図書館もあり、目的をもって図  
書館に行くことができる。養父市の図書館ではできないのか。

- ・市内の読み聞かせボランティアが一堂に会してイベントができるような機会が欲しい。朝来市で活動されている「あさごおはなしねっと」の方から聞いた講演を参考に11月頃に集結できる場を設けようと企画している。
- ・資料の複写など、図書館司書にしかできない業務があるので、各分館に最低1人は図書館司書をおいてもらうように市へ要望していただきたい。県外からわざわざ郷土資料を求めて複写を依頼された来館者があっても司書がいないと複写に対応できないといった事案も生じている。
- ・登録者数を増やすために、市内小中学校・義務教育学校、高等学校等に申請書を配布し、新規または更新を図ってみてはどうか。

## 6 その他、事務連絡

- ・第2回図書館協議会を1月から2月初旬に開催したい。改めて日程調整を行い、案内する。

## 7 閉会